

- 問1 京都市中心部の道路網は、道路が格子状に整然と張り巡らされた「碁盤の目」状の構造を持っています。このような都市構造が形成された歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 平安京の造営にあたり、中国の長安をモデルに、土地を管理しやすくするための「条坊制」が採用されたため。 | 2. 自然発生的に形成された集落が、山に囲まれた盆地の地形に合わせて直線的な道路で結ばれたため。 | 3. 江戸時代の城下町形成において、商人が活動しやすいよう平坦な土地に商業区を集中させたため。 | 4. 明治時代の近代化政策において、路面電車の線路を敷設しやすい直線を用いた区画整理が行われたため。 |
|---|--|---|--|
- 問2 兵庫県神戸市などの瀬戸内海に面した地域において、七月の平均気温が約二十八度と高い一方で、降水量が約百ミリメートル程度と他の地域に比べて著しく少ない統計が見られることがあります。このような、一年を通じて温暖で雨が少ない気候区分を何と呼びますか。 (2026年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|-----------|------------|------------|
| 1. 中央高地の気候 | 2. 瀬戸内の気候 | 3. 日本海側の気候 | 4. 太平洋側の気候 |
|------------|-----------|------------|------------|
- 問3 近畿地方の東側に位置する三重県自然环境について述べた文として、正しいものを次のうちから選びなさい。 (2025年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 県内全域にわたってカルデラと呼ばれる火山活動による窪地が点在し、世界最大級の規模を誇る。 | 2. 北西部には鈴鹿山脈などの山脈が連なり、中央部の志摩半島付近には複雑な海岸線が見られる。 | 3. 瀬戸内海の気候に属しているため、年間を通じて降水量が少なく、ため池が各地に点在している。 | 4. 北部の大部分は広大な平野であり、冬には季節風の影響で日本海側から湿った空気が流れ込み大雪となる。 |
|---|--|---|---|
- 問4 滋賀県に位置する安土城や長浜城、坂本城などの城郭は、その立地に共通した特徴があります。戦国時代から安土桃山時代にかけて、これらの城が琵琶湖のすぐ近くに築かれた主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---------------------------------------|---|
| 1. 険しい山頂に築くことで、標高の高さによる圧倒的な視認性を確保し、敵軍の侵入を物理的に遮断するため | 2. 琵琶湖を天然の堀として防御に利用し、同時に湖上の船を利用した物流や軍隊の移動を円滑にするため | 3. 琵琶湖の豊かな水を利用して、水田開発を進めるための農業拠点とするため | 4. 内陸部からの敵の侵入を防ぐため、周囲に広大な平野が広がる近江盆地の中央部に孤立させるため |
|---|---|---------------------------------------|---|
- 問5 近畿地方の兵庫県南部から大阪府にかけての地形は、山地が海の間近まで迫り、そこから平野部へとつながる特徴があります。このような地形的条件がこの地域の都市形成に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 大阪湾沿岸部は非常に標高が高い崖になっているため、港を建設することができず、内陸の盆地を中心に貿易が行われた | 2. 丹波高地から大阪平野にかけて標高差がまったくないため、河川の氾濫を防ぐための大規模な堤防が必要なかった | 3. 標高の高い山地が広大な面積を占めているため、人々は山頂付近に大規模な都市を建設し、生活の拠点としてきた | 4. 六甲山地などの山地と海に挟まれた平地が限られているため、海岸線を埋め立てて都市機能や港湾を拡張させてきた |
|---|--|--|---|
- 問6 本州と四国の間の瀬戸内海東部に位置する淡路島では、神戸や大阪などの大消費地に近いという立地条件を活かした農業が行われています。このような、都市の周辺で新鮮な農産物を供給する農業の形態と、この島で生産が盛んな野菜の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2019年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 工芸農作物として、茶の生産が盛んである | 2. 近郊農業として、レタスの生産が盛んである | 3. 促成栽培として、ピーマンの生産が盛んである | 4. 抑制栽培として、キャベツの生産が盛んである |
|------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|
- 問7 大阪府の農業において、米や果実の産出額よりも野菜の産出額が高くなっている主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|---|---------------------------------------|
| 1. 広大な土地を活かした大規模な機械化農業により、野菜の大量生産が可能だから | 2. 気候が冷涼であり、夏場でも新鮮な高原野菜を生産するのに適しているため | 3. 大消費地である大阪市などに近く、鮮度が求められる野菜を効率よく出荷できるため | 4. 平地が少なく傾斜地が多いため、稲作よりも野菜の段々畑が適しているため |
|---|---------------------------------------|---|---------------------------------------|
- 問8 京都市では、歴史的な景観を保全しながら都市の活力を維持するため、地域ごとに建物の高さの上限を定める「新景観政策」を導入しています。この制度において、歴史的な建造物が多く残る「保全区域」や、都市の再生を図る「再生区域」など、区域によって最高限度を細かく設定している主な目的として最も適切なものを次のの中から選びなさい。 (2015年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 工業化を優先させるために、住宅地以外の区域では高さ制限をすべて撤廃するため | 2. すべての区域で高層ビルの建設を促進し、周辺都市よりも人口密度を高めるため | 3. 市内のどの場所からも山並みが見えるようにし、歴史的建造物と調和した景観を維持するため | 4. 市全域で一律の高さ制限を設けることで、建築コストを抑え住民の負担を軽減するため |
|--|---|---|--|
- 問9 「環境こだわり農業」に関する統計資料において、2001年にはほぼ0haであった栽培面積が、2009年には約12,000ha近くまで急増している要因として、最もふさわしい説明はどれですか。 (2015年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 琵琶湖の水質保全を目的として、農業・化学肥料の削減や農業排水の管理を徹底する農家が増えたため。 | 2. 工業用水の需要が高まったことで、農業排水をすべて工業用に再利用するシステムが完成したため。 | 3. 海外からの安い農産物に対抗するため、化学肥料を大量投入して収穫量を最大化する方針に転換したため。 | 4. 農業従事者の高齢化に伴い、排水の管理や農業の散布などの手間を省く農法が普及したため。 |
|--|--|---|---|
- 問10 大阪府の製造業は、事業所数が約3万件以上と非常に多いことが特徴ですが、その背景にある産業構造の説明として最も適切なものはどれですか。 (2022年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 高度な技術を持つ中小規模の工場が、東大阪市などの内陸部に密集している。 | 2. 豊かな農産物を原料とする大規模な食料品加工工場が、臨海部に集中している。 | 3. 広大な土地を活用した大規模な自動車工場が、県内全域に分散して配置されている。 | 4. 大規模な石油化学コンビナートが形成され、少数の巨大企業が生産の大部分を担っている。 |
|--|---|---|--|
- 問11 大阪府や兵庫県を中心とする阪神工業地帯の産業構成について述べた文として、背景や実態をふまえて最も適切なものはどれですか。 (2020年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 大規模な石油化学コンビナートが集中しており、化学工業のみに特化した構造となっている。 | 2. かつては繊維工業が中心であったが、現在は北九州工業地帯と同様に鉄鋼業の出荷額が最も多い。 | 3. 重化学工業の割合が高いだけでなく、周辺の広大な消費市場を背景に食料品工業も発展している。 | 4. 自動車産業の集積が著しく、製造品出荷額の過半数を機械工業が占めている。 |
|---|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 平安京の造営にあたり、中国の長安をモデルに、土地を管理しやすくするための「条坊制」が採用されたため。	794年に桓武天皇が平安京を造営した際、律令国家の首都としてふさわしい秩序ある街づくりが行われました。中国の都である長安にならい、中央を南北に走る朱雀大路を境界として左京・右京に分け、全体を正方形や長方形に区画する「条坊制」が導入されました。この制度により、現在まで続く直交する道路網の基礎が築かれました。
問2	答え 2 瀬戸内の気候	瀬戸内海沿岸の地域は、北側を中国山地、南側を四国山地という険しい山々に挟まれています。この地形的要因により、夏と冬の季節風が運んでくる湿った空気が山地で遮られるため、年間を通じて降水量が少なく、晴天の日が多い温暖な気候となります。
問3	答え 2 北西部には鈴鹿山脈などの山脈が連なり、中央部の志摩半島付近には複雑な海岸線が見られる。	三重県の地形的特徴として、北西部には岐阜県や滋賀県との県境をなす鈴鹿山脈がそびえています。また、中央部から南部にかけては、志摩半島に代表されるリアス海岸が発達しており、山地と海が隣接する変化に富んだ地形を構成しています。
問4	答え 2 琵琶湖を天然の堀として防御に利用し、同時に湖上の船を利用した物流や軍隊の移動を円滑にするため	織田信長が築いた安土城や羽柴秀吉が築いた長浜城などは、いずれも琵琶湖に面するように配置されています。これは琵琶湖を巨大な堀に見立てて城の防御力を高めるだけでなく、当時、近畿地方と北陸・東国を結ぶ重要な交通路であった琵琶湖の水運（舟運）を掌握し、物資や兵員を効率的に運ぶ狙いがありました。このように、軍事的な拠点としての役割と、交通・物流の管理という経済的な役割の両立を図った立地といえます。
問5	答え 4 六甲山地などの山地と海に挟まれた平地が限られているため、海岸線を埋め立てて都市機能や港湾を拡張させてきた	兵庫県南部、特に神戸周辺では六甲山地が海の間近まで迫っており、居住や産業に利用できる平地が非常に限られています。そのため、山を削った土砂で海を埋め立て、ポートアイランドのような人工島や公共施設を整備することで、限られた土地を有効に活用して都市を発展させてきた歴史があります。
問6	答え 2 近郊農業として、レタスの生産が盛んである	淡路島は、京阪神という巨大な消費地に隣接しているため、収穫したばかりの鮮度が求められる野菜を短時間で輸送できる利点があります。この立地を活かした農業は近郊農業と呼ばれ、特にレタスやたまねぎなどの栽培が全国的にも有名です。温暖な気候と、地形（北部が丘陵、中部が平野、南部が山地）に応じた土地利用が行われています。
問7	答え 3 大消費地である大阪市などに近く、鮮度が求められる野菜を効率よく出荷できるため	大阪府のような都市部では、農地面積が限られている一方で、背後に巨大な消費市場（大阪市など）が存在します。そのため、輸送距離が短い利点を最大限に活かせる、鮮度劣化の早い野菜を中心とした生産体制がとられています。これが都市近郊農業の背景にある合理的な理由です。
問8	答え 3 市内のどの場所からも山並みが見えるようにし、歴史的建造物と調和した景観を維持するため	京都市は三方を山に囲まれた盆地に位置し、多くの文化財を有しています。そのため、無秩序な高層化が歴史的景観や周囲の山並みへの眺望を損なわないよう、区域の特性に応じて建物の高さに「最高限度」を設けています。例えば、歴史的な景観を重視する「保全区域」では、都市の利便性を重視する区域よりも厳しい高さ制限が課されるなど、景観と都市活動の両立が図られています。
問9	答え 1 琵琶湖の水質保全を目的として、農業・化学肥料の削減や農業排水の管理を徹底する農家が増えたため。	環境こだわり農業の栽培面積が2000年代を通じて右肩上がりに増加したのは、持続可能な農業に対する社会的関心が高まったことや、琵琶湖の環境を守るという地域特有の課題に対する意識が農家の間で浸透したことが背景にあります。この農法では、農業や肥料の使用を控えるだけでなく、湖への負荷を減らすための厳格な排水管理が求められますが、それらが「環境こだわり農産物」としてのブランド価値にもつながり、普及を後押ししました。
問10	答え 1 高度な技術を持つ中小規模の工場が、東大阪市などの内陸部に密集している。	大阪府の製造業は、1事業所あたりの従業員数が比較的小さい中小企業の割合が非常に高いことが特徴です。特に金属製品や機械部品の分野では、世界的に高いシェアを持つ製品を作る「まち工場」が密集しており、これが事業所総数の多さや、金属製品の割合の高さにつながっています。
問11	答え 3 重化学工業の割合が高いだけでなく、周辺の広大な消費市場を背景に食料品工業も発展している。	阪神工業地帯は、古くから「天下の台所」と呼ばれた大阪を中心に、人々の生活に密着した食料品や医薬品などの産業が発展してきました。重化学工業化が進んだ現在でも、パンや清酒、冷凍食品といった食料品工業の製造品出荷額が、他の中京や京浜といった工業地帯に比べて高い割合を維持している点が、入試においても頻出の重要ポイントです。